



東濃地区の子育て・親育ち通信

家庭教育なう

No.12

2025年3月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島

〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111〈内線 208〉

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihito@pref.gifu.lg.jp

家庭教育「なう」は、恵那県事務所のHPからご覧いただくことができます。QRコード→



令和6年度 家庭教育支援研究協議会に参加しました

令和6年度家庭教育支援研究協議会（文部科学省総合教育政策局地域学習推進課家庭教育支援室）が2月7日にオンライン開催されました。恵那県事務所からも社会教育の担当課長補佐と家庭教育推進専門職で参加しました。全国の家庭教育支援に携わるみなさんとグループ交流ができ、また、文部科学省、こども家庭庁の施策担当の方のお話が伺えました。内容の一部を紹介します。

- 1 家庭教育支援の現状について（文部科学省地域学習推進課家庭教育支援室）
- 2 はじめの100か月の育ちビジョンについて（こども家庭庁成育局成育基盤企画課）
- 3 こどもの居場所づくりに関する指針について（こども家庭庁成育局成育環境課）
- 4 家庭教育支援推進のための調査研究事業報告（株式会社 Ridilover）
- 5 家庭教育支援チーム調査からみる「自治体×民間団体」連携マニュアル（株式会社リベルタス・コンサルティング）
- 6 鹿嶋市訪問型家庭教育支援チームの取組
- 7 保護者に寄り添う家庭教育支援チームの取組（交野市家庭教育支援チーム“ボラリス”）
- 8 家庭教育支援チームの取組～親子と地域を結びつける懸け橋に～（唐津市家庭教育支援チーム）

ワークショップとして、1～4と、5～8について2回グループ交流会が実施されました。

会に参加して、「家庭教育は見えにくいところがあるので、できるだけ数値を使って『見える化』を図っていること、そして、変容を引き出すことを大切にしている。」という話が印象に残りました。

家庭教育学級を運営する際にも、**見える化【数値・変容（質のよいエピソード）】**を意識したいものです。

令和7年度家庭教育学級リーダー研修会（乳幼児の部、小中学校の部）について

2月に「第3回東濃地区家庭教育担当者会」を実施しました。その際に、「令和7年度家庭教育学級リーダー研修会」についても、5市の担当者から、ご意見をいただき、一次案内を送付させていただいています。二次案内（参加申し込み等）は、4月上旬に送付します。4月になりましたら、各市の窓口へお申し込みください。

来年度の研修計画に位置付けて、みなさまの家庭教育支援の推進の一助にいただければ幸いです。

5月9日（金）東濃西部地区（多治見市、瑞浪市、土岐市）会場：東濃西部総合庁舎

乳幼児の部 午前 10:00～11:45 小中学校の部 午後 2:00～ 3:45

5月12日（月）東濃東部地区（中津川市・恵那市）会場：恵那総合庁舎

乳幼児の部 午前 10:00～11:45 小中学校の部 午後 2:00～ 3:45

令和6年度の東濃地区の家庭教育支援の実績 数値で見える化（昨年度）

★家庭教育学級リーダー研修会に、小学校は**98%**、中学校は**97%**の学校が参加しています。

★家庭教育学級リーダー研修会に、教職員、保護者共に参加した学校は、約**85%**です。

★家庭教育学級リーダー研修会に中津川市、恵那市の公民館の**88%**が参加しています。

★「話そう！語ろう！わが家の約束運動」とそれに類する在宅の取組は、小学校**100%**、中学校**97%**の学校が行っています。

これまでこの地区が家庭教育学級の取組を大切にしてきた歴史が感じられます。



瑞浪市立瑞浪中学校 PTA 教育講演会

箱根駅伝で「総合優勝」勝ち取れたのは ～青学陸上部式 自律し、成果を出す法則～

日時 令和7年1月17日（金）14:30～15:20

参加者 瑞浪市立瑞浪中学校全校生徒338人、保護者約100人

会場 瑞浪中学校体育館

青学 強さの秘訣は「自律」 成果を出す 4つのプロセス



薄井校長先生「伊藤コーチの話をぜひ、保護者や生徒たちと聞きたい。」

伊藤雅一（いとう まさかず）コーチ
【青山学院大学陸上競技部、長距離ブロック】
原晋（はら すすむ）監督から「私の右腕」と言われています。本年度の連覇にも貢献。瑞浪市陶町出身。

講師は、今年の箱根駅伝で連覇を果たした青山学院大学陸上競技部長距離ブロック伊藤雅一コーチでした。駅伝の好きな方なら、今、正に一番お話を聞きたい方かもしれません。伊藤コーチは、今年度の箱根駅伝の連覇に貢献されただけでなく、四年生時には、チーフマネージャーとして青学箱根駅伝4連覇にも大いに貢献されています。

講演では、箱根駅伝で有力チームがしのぎを削る中、結果を出し続けるその秘訣の一端を伺うことができました。伊藤コーチも話の中で中学生に語っていましたが、「これは駅伝だけに関わらず、高校受験等を控え、自分の夢に向かってみなさんにとっても、大いに参考になるのではないかと思います。」と語りかけてみえました。講演内容の一部を紹介します。

「青山学院大学の『強さ』の秘訣の一つは『自律』です。『箱根駅伝』で結果を残すには、自律した個人・集団づくりが重要と考えて「自律に向けての4つのプロセス」を大切にしていました。今日は、そのことについてお話しします。

自律に向けての4つのプロセス

- 1 目標・理念の明確化
- 2 逆算思考
- 3 ミーティングの活用
- 4 根拠の理解

自律とは…辞書では…自分自身の規範に従って行動することです。『先生に言われたから練習をやる。』これでは自律しているとは言えないわけです。先生がいないとやらない…。これは、勉強にもあてはまりますよね。

親が言うから、先生が言うから勉強するのは自律ではありません。」

生徒と共に講演会に参加した保護者のみなさん



【生徒の感想】（3年生女子）

私は目標を決めても、なかなか達成できず、あきらめてしまうタイプです。今日の話聞いて、期限を決めて、積み重ねるといところがためになり、とてもやる気をもらえました。これから、受験、そして高校生活へと進んでいけると思いました。

【生徒の感想】（3年生男子）

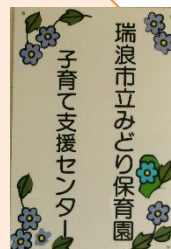
心に残ったのは、「やり切るところまでやる」ということです。自分自身「やり切ったか」と言われると、「そうだったんだろうか」と思うことがあります。「目標を立て、その目標を達成するまでの計画を立てて実行する」ことの大切さがわかりました。

【ここを学びたい】親子で同じ話を聞き、実績を作った人から学ぶ

伊藤コーチのお話は、テーマ通り「優勝」という実績を作り上げるための法則を学べる貴重なものでした。夢や自分の生き方を模索し、日々学んでいる中学生とそれを支える保護者にとって、夢（進路）を達成するためのそれぞれの親子なりの法則を見つけられる示唆に富んだ内容でした。

瑞浪市子育て支援センター 愛モア ひよこ乳幼児学級 親子体操 ～親子でレッツトライ!～

日 時 令和7年1月24日(金) 10:00～11:00
講 師 小池 久司 さん(オハナ体操教室)
参加者 6カ月から1歳の乳幼児とその保護者12組
会 場 瑞浪市立みどり幼児園内(愛モア)



楽しく体を動かし 親子でスキンシップ

「お子さん、喜んでますか?こわがっていませんか?」

瑞浪市子育て支援センター愛モアは、就学前のお子さんとその保護者が集まり、地域の交流や情報公開、こどもたちのふれあいなど安心安全に活動できる施設です。今回は、「親子体操～親子でレッツトライ～」として、オハナ体操教室の小池久司先生をお招きしての親子体操教室を開催しました。

☆「6カ月の子が運動できるんでしょうか。」

開始前に小池先生に質問しました。お返事は、「無理は禁物、安全第一です。どこまでやってよいか。様子を見ながらやっています。今日は、音楽にのっとりリズム遊びや、ボール遊びも用意しています。」とのことでした。参加親子の様子をよく見ながら体操メニューを進めてみえることがわかりました。

☆ 子どもにとって、初めて体験する動きがチャンス

「広がるかな?」と遊びの中で、股関節を伸ばす運動に取り組んだり、くすぐって体がねじれたときに腹筋を意識させたりと運動とその運動の効果を解説しながら体操教室は進みました。特に先生の声かけで多かったのは「どうですか?お子さんの様子は、怖がったりしていませんか?」とお母さんがこどもの表情や体に入る力加減を観察することを促す声かけです。

「子どもを抱きかかえた体制から、下におろすと自然に手がでます。手が出てきたらチャンスです。そのまま下につけてしましましょう。うまくすると手押し車がができます。」「へえー!」お母さんたちから感心の声があがりました。



小池先生は人形をモデルにして、お子さんとお母さん方に体の動かし方を伝えました

ボールをころがした時
お子さんは、どんな反応
しますか?



お子さんと目を合わせる体操が多く組み込まれていました



【参加された方の感想を紹介します】

「日頃からセンターを利用しています。今日は家ではなかなかできない運動ができてよかったです。音楽に乗って、体を動かすことを楽しんでいました。同じぐらいの年齢の子と接することができたのもよかったです。」

「子どもは楽しそうに反応していました。愛モアさんは、日頃からよく利用しています。今日の体操でも、ここで一緒にやる方もみてよかったです。」

「昨年この親子体操に参加しました。ふだん運動の機会がないから、やってみて、こんな動きもできるんだなと思いました。子どもものびのび楽しそうにやっていたので、今年も申し込みました。」

【ここを学びたい】

- ・**体を動かす楽しさを味わい愛着形成を** 2024年12月「全国体力テスト」の結果が公表されました。コロナ禍で落ち込んだ数値は、ゆるやかに回復傾向を示す中、小学生女子の体力合計点が過去最低を更新しています。種目別では「握力」「持久力」の低下傾向が続いています。今日の体操教室のように、小さな頃から、自分の体は自分で支える力をつけるなど、お互い体を動かす喜びを味わうことで、質の良い愛着形成がなされます。
- ・**子どもの様子を観察する力を養う** 親子で体操に取り組むと「こんな体勢、うちの子大丈夫かしら?」と思うこともあるかもしれません。そんなときに、子ども表情や体の力の入り具合を敏感に察知するようにします。文部科学省の令和5年度「家庭教育支援推進のための調査研究」によると家庭教育の悩みの第一位は「子どもの行動、気持ちがわからない」(45.1%)でした。小さな頃から、子どもの表情やふるまいを察知し、気持ちや様子を思いやっているとこうした悩みの解消につながりやすいのではないのでしょうか。この体操教室は、そういう意味でもとても意義深いものです。

中津川市立第二中学校 PTA 行事(家庭教育委員会) 「弁当の日」の取組

日時 令和7年1月20日(月) 9:00~11:00
参加者 中学生411名とその保護者



兄は「焼肉弁当」、妹は「サンドイッチ」、朝の台所は大にぎわい！

中津川市立第二中学校 PTA では、平成21年から「弁当の日」に取り組んできました。今年度で15年目(コロナ禍で中断を含む)になります。令和2年には、竹下和男さん(香川県元滝宮小学校長、弁当の日の提唱者)を中津川市にお招きして研修したこともあります。当時の資料では「第二中学校の『弁当の日』は、親や先生にやられるのではなく、生徒たちが主体的に取り組む活動です。自分たちでそれぞれが頑張ることのできる方法を決め3つのコースから選んで取り組んでいます。」とあります。始めは年3回の取組でしたが、今は、夏休みに自宅で取り組み、そして学校で1回実施する形になっています。学校と家庭が協力し合って、「自分で弁当を作る」ことから、生徒の主体性や生きる力を育む活動です。

この日、中学校では「弁当の日」特別日課を組みました。朝の登校を30分遅らせてスタートしています。それは、朝、生徒が弁当を作ることを想定してのことです。生徒は、事前に学級活動で、この日の取り組みについて、その趣旨や、行い方を事前に学んでいます。そして、3つのコースを選択しています。

- ① 完璧コース(材料の購入、お弁当の制作、あと片付けまで、自分の力で言う)
- ② 協力コース(おうちの人に一部手伝ってもらうが、自分でも調理する)
- ③ 感謝コース(全てお家の人が作る。おうちの人に「感謝の気持ち」で願う)

*結果的に感謝コースになることはあっても、計画の時点ではない。

また、家庭教育委員会もこれを支援する形で保護者に通信などで呼びかけています。そうして、迎えたのが、この「弁当の日」でした。下の写真は、矢野校長先生が、生徒からお弁当作りについて聞いている様子です。



各教室では、給食委員会などの担当生徒がリーダーとなり「振り返り活動」が進められていました。

「どのコースで弁当を作りました？」

1年生は「協力コース」の子が多かったです。学年があがるほど、「完璧コース」が増えることがわかりました。取組を継続していることで3年間で少しずつ成長していることがわかります。

「グループでお弁当を見ながら食べられるといいのにね。」

この取組を大切に思うPTA本部役員の気概を感じました。

【地元のスーパーも応援】

「子どもが成人するまでの教育は、家庭(親)、学校(教員)、地域(住民)が責任分野の境界線を厳密に分業していたのではできない。大人が連携して子どもの成長を喜んでいるという環境の中で育むことが理想だ。そして、献立~片付けまで自分一人で弁当づくりに励むことが、バランスの良い生活体験・社会体験・自然体験になる。」

食品スーパー「スマイル」は、「子どもが作る弁当の日」の主旨に賛同し、右のようなのぼりを用意し、応援しています。



【ここを学びたい】 広がる「つながり」の輪

この取組の原点は、平成21年の県PTA研修総会での講演会「弁当の日の紹介」にあるそうです。あれから15年、コロナ禍で途切れかけた「つながり」が今、ゆるやかに復活しています。再び、学校、家庭、地元の会社(スーパーマーケット)へと。

子どもが作る「弁当の日」とは？

提唱者の竹下和男さんがこの活動について語っています。



<https://bentounohi.co.jp/about/>